



# お薬ロボットの活用と 多職種連携

～一本線でつながる支援を～

ケアプランセンター-WAN STYLE+  
徳平 あゆみ



# Aさん女性 70代 夫と2人暮らし。

脳血管性認知症の診断があるが、1時間程度なら会話のやり取りを覚えている

定期内科受診は2か月に1度、坐骨神経痛の為1、2週間に一度の整形外科へ受診頻度が増えた

杖歩行でゆっくりと移動可能、トイレは自立レベル

1人息子がいるが、障害のため施設入所中で息子との面会を楽しみにしている



## ◎課題◎

- ①服薬管理が難しく、飲み忘れる。
- ②足の痛みもあり受診へご夫婦で行くが、診察内容の理解が曖昧、内容を忘れてケアマネや事業所間での共有が出来ない
- ③服薬にズレがあるため、定期受診が予定通りに行かず、急な受診もあった
- ④支援出来る家族はご主人のみ。服薬促しも難しく、デイサービス利用時間外のお薬が全て残っていた。



## ◎対応策◎

- ①デイサービス看護師により、週に一度服薬カレンダーへセッティングし、毎回声かけを行う事で朝、昼の服薬動作はできる
- ②病院へ行く日をデイサービス職員が確認し、通所利用時や送迎時に本人とご主人に声かけ
- ③週末の朝、昼、夜の服薬をチャック袋へ入れて、どのタイミングで服薬するというメモを付け、送迎時に持たせてご主人へ説明し、時間になったら促して服薬



# ㉟ それでも課題が残り・・・㉟

① デイサービスの範囲を超えた継続的な支援で負担増

薬を目の前にセットしても都度声をかけないと意識が向かず、  
飲まれていない。

② ご主人の理解も曖昧で、変化などの共有が難しい。

また、ご本人が「痛み止めは自分で持つ！たくさん飲めば効く」と、一度に重複してしまうこともあるがご主人は止められない。

③ ご主人の服薬声かけ、受診の同行、自宅の家事など負担増

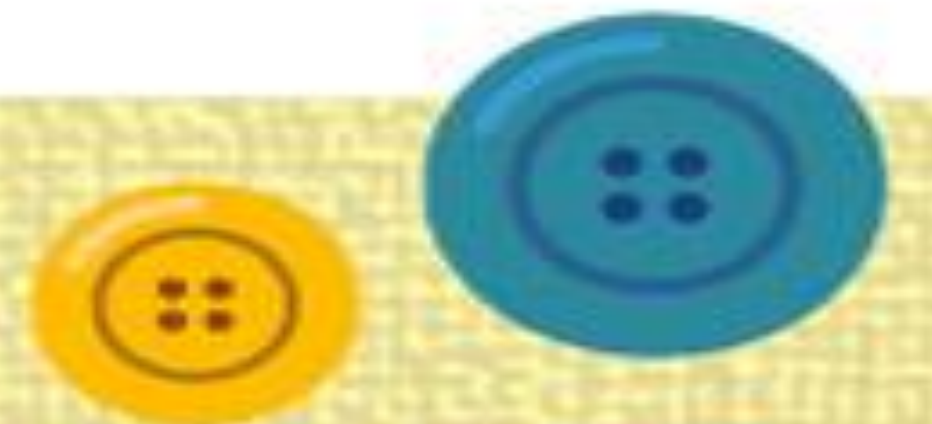


# ご夫婦それぞれの思い

11歳年上のご主人：いつまで続けられるか、僕がいなくなったら家内はどうなるのか・・・

『施設に入れたら薬のことや身の回りの事など、安心だと思うけど』というご主人。

ご本人：息子に会うことが楽しみだから、私は施設に入りたくないよ。

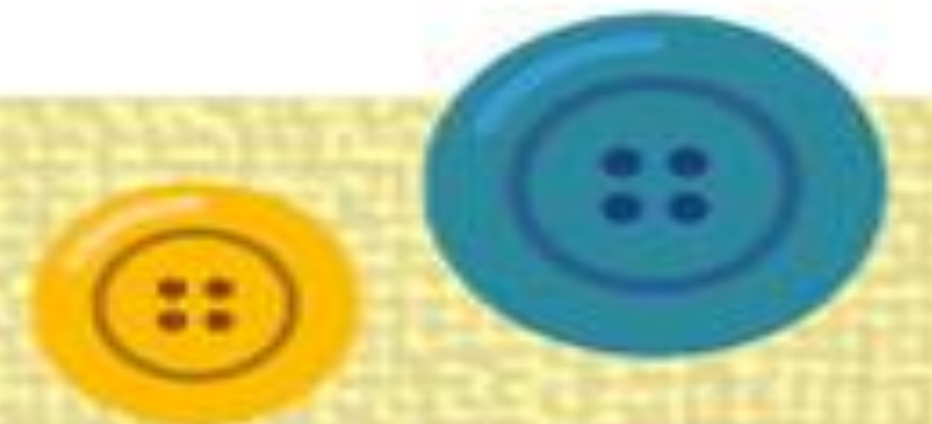


# ここでお薬ロボットの登場!!

- ◎定時に頓服なども含め、4つまでパターンをセットできる
- ◎アナウンスがあるので操作が簡単
- ◎ロボットから取り出すまで、5分おきにアナウンスが続く
- ◎間違えて押すと『お薬のじかんではありません』と伝えてくれる
- ◎デイサービスなど外出時は個別に取り出し可能



**10日ほどお試して使用して、経過観察**



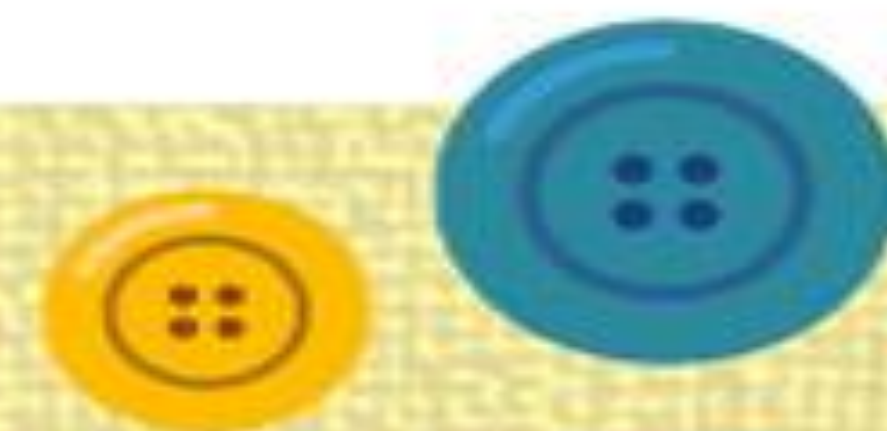


## 次の課題が、受診の時の情報共有について

- ・ 案として、ヘルパーでの通院等乗降介助 + 自費で院内付き添い。または介護タクシーでの全て自費での支援など

- ・ ・ ・ ただ、どちらも2時間の支援で、おおよそ6000円以上となるため継続する時の金銭負担が辛い💧

金銭的な不安を抱えたまままだと新たな課題となる。



次の案として思いついたのが、



病院に相談してみよう！



医療サービス導入の為、医師の意見聴取もあり  
受診同行することに。

問診や診察の際にも説明し、看護師さんや医師も  
『お薬ロボットって何ですか?!』となりました。



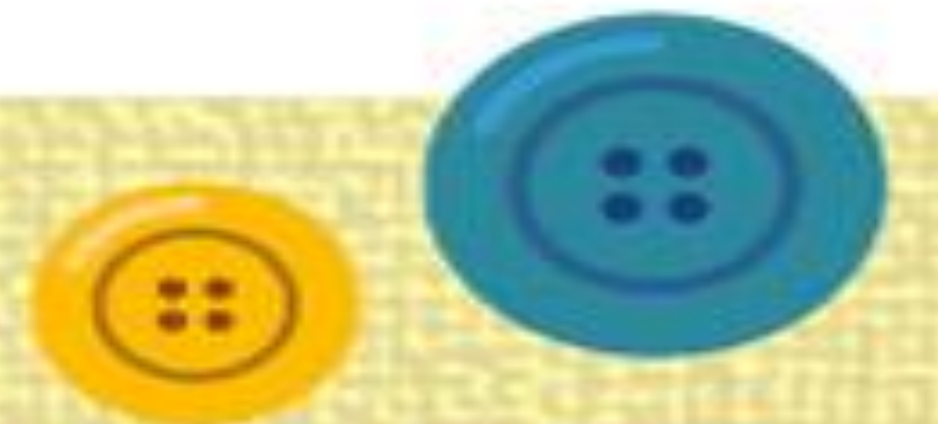
意見聴取はもちろんです。が、今後の変化などの連携について  
課題がある事を共有し、医師との連携方法を相談。



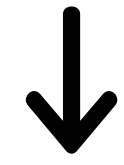
## ☆処方箋の備考欄の活用提案☆

「数値が良くなっているから、お薬の減量する」など変化を備考へ  
記載可能ですよと助言を頂けた。

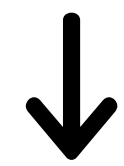
次回受診予約の日時を記載。



処方箋からの情報により薬剤師へ

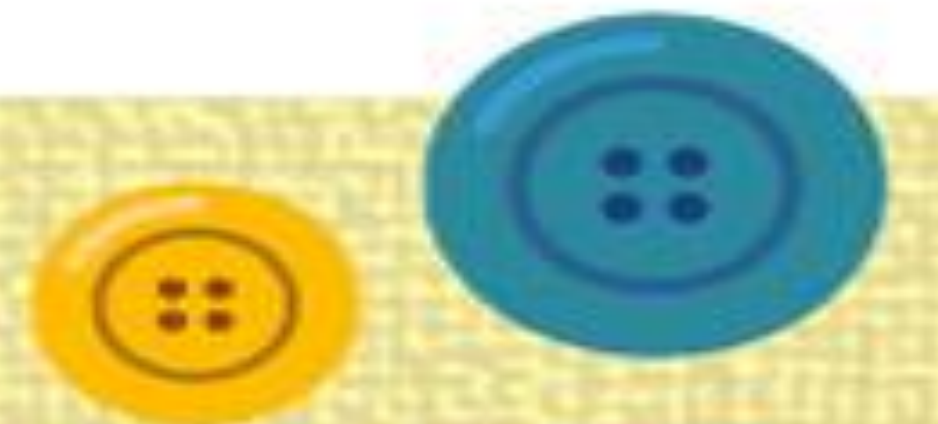


居宅療養管理指導の報告によりケアマネへの共有



更に事業所へ共有可能となる

担当者会議で流れを共有し、病状の把握や服薬管理の体制ができ、通所での対応へ繋がる。  
他職種連携により**一本線の支援へ**

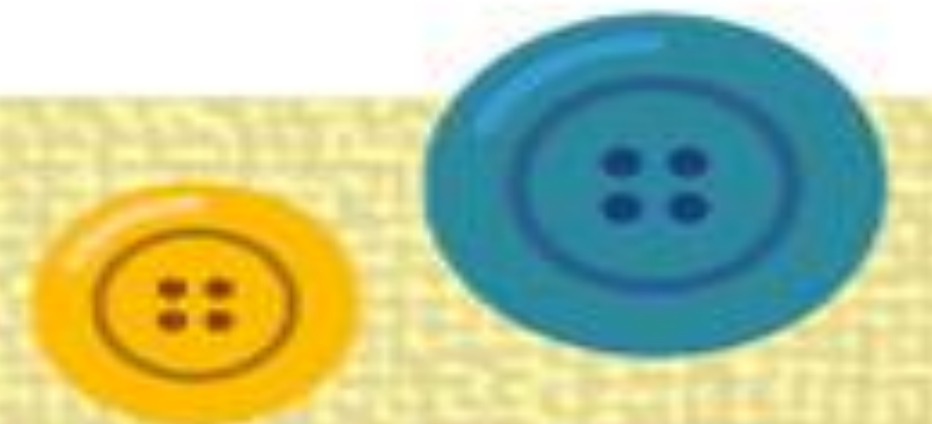


# 総括

お薬ロボットを導入し、「忘れてしまう」という壁を乗り越える事ができ、ご本人の役割もできたことで自信につながった。

支援者もお薬ロボットの存在を知ること、支援の幅が広がり、役割分担を明確にすることで、連携が図りやすくなる。

ご本人、ご家族、関わる支援者の負担軽減にも大きく繋がる。



ご清聴ありがとうございました！

